

2019 年度事業報告書

自 2019 年 4 月 1 日
至 2020 年 3 月 31 日

公益財団法人 徳島新聞社会文化事業団

[1] 「第3回徳島新聞“輝け 高校生”クラブ活動助成金」を贈呈

県内高校生のクラブ活動を支援する事業で、2017年度から実施。今回は運動部門に9クラブ(前年23クラブ)、文化部門に7クラブ(同15クラブ)の合わせて16クラブ(同38クラブ)の応募がありました。県高校体育連盟と県高校文化連盟に審査を依頼した結果、運動・文化各5クラブの推薦があり、下記の通り決定しました。贈呈式は7月9日に徳島新聞社1階会議室で行い、それぞれ20万円を贈りました。

《周知方法》 新聞社告(4月10日)、各高校に文書通知、チラシ作成、事業団HP

- ◇運動部 池田高校 山岳部(代表・西本惟莉)
- 鳴門渦潮高校 弓道部(代表・宮北朔良)
- 阿南光高校 ライフル射撃部(代表・遠藤稔樹)
- 川島高校 剣道部(代表・三笠志織)
- 城ノ内高校 フェンシング部(代表・仁木明日香)
- ◇文化部 鳴門高校 書道部(代表・藤川俊朔)
- 城東高校 オーケストラ部(代表・阿部まなみ)
- 徳島市立高校 演劇部(代表・山脇拓也)
- 阿南光高校 音楽部(代表・菱井幹太)
- 城ノ内高校 JRC部(代表・湯浅真奈)

[2] 「第8回徳島新聞生命科学分野研究支援金」を贈呈

生命科学分野の研究に熱心な県内の大学生や大学院生を支援する事業。今回は31件(徳島大・大学院25件、四国大学大学院3件、徳島文理大学3件)の応募があり、島本隆・徳島大学大学院教授らで組織する審査委員会で、研究に対する情熱と意欲、研究活動資金不足のひっ迫度などを審査し、下記の皆さんに決定しました。贈呈式は7月24日に行い、徳島大学大学院の3人、四国大学大学院、徳島文理大学大学院の各1人の研究にそれぞれ20万円を贈りました。

《周知方法》 新聞社告(4月20日)、各大学に文書通知、チラシ作成、事業団HP

- | | |
|--------------------|-------|
| ・徳島大学大学院 薬科学教育部 | 仲村 明人 |
| ・徳島大学大学院 先端技術科学教育部 | 安部 庄剛 |
| ・徳島大学大学院 保健科学教育部 | 村田 梨菜 |
| ・徳島文理大学大学院 薬学研究科 | 柳本 剛志 |
| ・四国大学大学院 人間生活科学研究科 | 小松 広奈 |

[3] 「第25回徳島障害者芸術祭 エナジー2019」を開催

感性豊かな障害者アーティストの発表の場を設け、芸術活動を支援する事業。4月13日に共催団体である「ねっとわ〜くAs」のメンバーと第1回打合会を開き、7月20日の第2回打ち合わせでポスターのデザインを決め、開催に向けた準備を始めました。

県文化の森総合公園内の県立近代美術館ギャラリーと21世紀館多目的活動室にて10月1日から6日まで開催。今回は第25回を記念し、特設コーナーを設け、過去のポスターを掲示するとともに、令和やラグビーW杯といった今年の出来事にちなんだ「トピックス作品」を募集しました。

278人・37団体から計315点(前年は279人・36団体から同数の315点)が出展され、このうち「トピックス作品」と「藍色作品」にはともに29点の出品がありました。最終日に表彰式を行い、エナジー大賞2人、エナジー賞10人、藍色エナジー賞1人、第25回記念賞1人、審査員特別賞2人、ねっとわ〜くAs賞5人、かみなづき賞(来場者の人気投票で決定)5人に賞状や記念品を贈りました。来場者総数は延べ3472人(前年3227人)。

《周知方法》 新聞社告(5月18日、8月4日)、新聞広告(8月21日、9月24日)、ポスター(各施設や各支援学校、徳島新聞販売店など)、DMはがき(関係者)

[4] 「第3回徳島新聞ふるさと元気事業支援金」を贈呈

産業分野で優れた業績を収め、地域の活性化等に貢献している県内中小企業・小規模事業者を支援する事業。産業育成を通じて地域を元気にしたいという寄付者(中田祐児氏)の思いから、2017年度から始めました。

県内経済団体等への周知に努めた結果、今回は前年より5件多い20件の応募があり、11月11日に審査委員会を開催。折り畳み自転車と公共交通機関を組み合わせた新しいスタイルの観光業を提案し、持続可能な地域づくりに取り組む「株式会社AWA-RE」に支援金100万円を贈ることを決めました。贈呈式は12月2日に行い、過去の支援者を招いての懇親会も実施しました。

《周知方法》 新聞社告(9月3日)、新聞広告(8月21日、9月24日)、ポスターとチラシ(各経済団体や市町村商工関係団体)、事業団HP

[5] 「第47回徳島新聞奨学生」を選考

県内外の大学に進学する学業、人物ともに優秀な高校生15人に奨学金を贈る事業。今回(2020年度生)は県外文系17人(定員6)、同理系19人(定員5)、県内文系4人(定員2)、同理系10人(定員2)の総数50人(14校)の応募がありました。前年度

の応募総数は49人(11校)。

筆記試験を7月28日に行い、家庭事情や困窮度なども考慮し、25人を選考。8月25日に面接試験を実施し、合格者15人と補欠者10人を内定しました。今春の入試の可否で奨学生を最終的に決めました。15人の内訳は徳島新聞奨学生12人、キョーエイ奨学生3人。

《周知方法》新聞社告(5月5日)、各高校に文書通知、ポスター(各高校と各徳島新聞販売店など)、事業団HP

※第47期生(2020年度)の奨学生は次の皆さん(氏名、進学大学、出身地、出身校の順)。

◇県外大学(月額奨学金55,000円、支度金50,000円)

文系(5人)

雑賀 稔弥	神戸大学経済学部	徳島市	徳島市立
坂東あかね	東京外国語大学言語文化学部	徳島市	城ノ内
坂本 萌歌	関西学院大学国際学部	徳島市	徳島北
武田 遥都	大阪大学法学部	小松島市	城東
藤川 諒子	奈良女子大学文学部	阿南市	富岡東

理系(4人)

黒石 康喬	名古屋大学医学部	徳島市	徳島市立
木村 友哉	自治医科大学医学部	板野郡	徳島北
前田 みのり	奈良女子大学理学部	鳴門市	城東
村田 知弥	大阪府立大学工学部	板野郡	城東

◇県内大学(月額奨学金30,000円、支度金30,000円)

文系(1人)

中泉 陽菜	徳島大学 総合科学部	阿南市	富岡西
-------	------------	-----	-----

理系(2人)

尾崎 ゆい	徳島大学 医学部	徳島市	城東
近藤 真緒	徳島大学 医学部	鳴門市	城東

◇第37回キョーエイ奨学生

田村 一輝	大阪大学 経済部	阿南市	富岡東
眞鍋 菜摘	北海道大学 総合理系	徳島市	城東

小司 健登 徳島大学総合科学部 徳島市 城東

※2020年3月で給付の終わった人の進路は次の通りです。

▽第41期生

新居 香織	(徳島大学医学部)	徳島赤十字病院
中堀美嘉子	(徳島大学医学部)	姫路聖マリア病院
榊 優希	(徳島大学医学部)	徳島赤十字病院

▽第43期生

仁義 愛	(近畿大学総合社会学部)	甲子園大学大学院心理学研究科
後山 奈央	(関西大学文学部)	(株)ヨックモック
種井 博紀	(関西学院大学法学部)	三菱電機(株)
吉川 泰生	(神戸大学経済学部)	公益財団法人関西経済連合会
井上 健翔	(広島大学理学部)	広島大学理学研究科化学専攻(進学)
村上 誉幸	(大阪大学工学部)	大阪大学工学研究科
佐川 季良	(徳島大学総合科学部)	(株)メディックス

[6] 「第1回坂東ハート奨学生」を選考

母子家庭を対象に人物面で優れた高校生ら2名に奨学金を贈る新事業。徳島市内で医院を営む坂東正章医師からの寄付金100万円を原資に創設しました。13校から21人の応募がありました。

作文と面接試験を8月4日に行った結果、上位の2名を合格者とし、補欠者2名とともに内定しました。

《周知方法》新聞社告(5月5日)、新聞広告(6月8日、6月28日)、各高校に文書通知、ポスター(各高校と各徳島新聞販売店など)、事業団HP

◇第1期生(2020年度)の奨学生は次の皆さん(氏名、進学大学、出身地、出身校の順)。

橋本 綾斗	千葉大学	阿南市	阿南高専
岸本 美礼	徳島文理大学	阿南市	富岡西

[7]第48回歳末チャリティー作品・色紙即売展を開催

歳末の恒例イベントとなっている即売展をそごう徳島店で2019年12月13日から15日まで開催しました。その後、16日から18日まで新聞放送会館でも開きました。今回は特に県内外のアーティストの発掘に努めた結果、202人(前年183人)の芸術家や著名人らが協力していただき、絵画や手工芸、サイン色紙など501点(同449点)が寄せられました。

社内販売等を含めた総売上額は3,829,500円に上り、前年に比べ1,172,592円の大幅増となりました。諸経費を差し引いた収益金も1,143,272円で、前年より692,336円増えました。例年通り全額を徳島新聞社会文化助成金に充てました。

そごう徳島店が閉店することから今年は県内巡回(県央、県南、県西)の即売展にします。

《周知方法》新聞広告(12月4日)、新聞社告(12月13日)、新聞記事(12月11日、14日)、事業団HP

※出展者等は次の通り

出展者 202人(前年183人)

洋画家	85人	日本画家	13人	版画家	4人
彫刻家	2人	マラソン選手	2人	イラストレーター	2人
美術工芸家	13人	藍染	3人	消しゴム版画家	2人
作家	3人	歌手・俳優	5人	浪曲師	1人
漫画家	1人	音楽家	1人	棋士	12人
ゴルフ選手	2人	囲碁棋士	2人	歌舞伎役者	5人
書道家	3人	手工芸家	28人	エナジー出品者	28人

作品 501点(前年449点)

	出品数		販売数	
	数	()	数	()
美術作品	200点	(145)	59点	(59)
色紙作品	143点	(95)	66点	(66)
手工芸品	73点	(91)	79点	(79)
美術工芸品	53点	(118)	83点	(83)
エナジー作品	32点	昨年なし	20点	昨年なし

収益金 1,143,272円 (前年450,936円)

総売上額 3,829,500円 (前年2,656,908円)

(円)

内 訳	2019年	2018年
会場販売	3,222,400	2,091,100
社内販売	112,100	151,500
阿波銀行	210,000	372,000
徳島銀行	200,000	0
大和証券	75,000	0
ミマガクブチ	10,000	23,000
関政明展	0	19,308
総売上額	3,8295,00	2,656,908

経費 2,686,228 円 うち作者還付金 1,281,370 円

[8] 徳島新聞社会文化助成金を贈呈

1月8日付の徳島新聞朝刊広告から社会文化助成金の交付申請を受け付け、2月10日に締め切った結果、105団体から総額1456万4000円(前年1345万8932円)の申し込みがありました。各団体の申請内容を厳正に審査し、81団体、総額670万円を贈ることを決めました。助成額は前年(77団体、602万円)に比べ68万円増となっています。

各団体が希望する申請額には及びませんが、できるだけ多くの団体に行き渡るようにし、前年、前々年と比較しながら算定。また、県福祉基金、県社協などから助成を受けた団体には遠慮願いました。

今回は歳末チャリティーの収益は増加したものの、依然、原資の捻出は厳しい状況にあり、規定の「地域社会における社会福祉の増進および地方文化の向上を目的とする」を基準に、申請書類等を精査。活発に活動する障害者団体、福祉・ボランティア団体、文化振興団体、また初申請の団体に優先的に配分しました。

《周知方法》新聞広告(12月4日、1月8日)、新聞社告(3月11日)、事業団HP

(単位:千円)

団体名	代表者	前年度	申請額	決定額
◆肢心障害者関係(17団体 1,240)	(申請は23団体 2,615)			
徳島県重症心身障害児(者)を守る会	杉本 勝	70	70	50
(障害者共助グループ)友遊くらぶ	山崎 美代子	50	100	50

徳島心理リハビリテーション親の会「すだちの会」	野田 恵子	70	200	70
徳島県精神障害者家族会連合会	西村 三希子	50	100	50
ねたきりになら連実行委員会	久米 秀昭	100	200	100
いたの共同作業所あせび	石田 初美	50	50	50
徳島車いす友の会	井村 咲子	50	50	50
板野町精神保健ボランティアハート・いたの	林 邦江		50	50
(特非)トモニ発達支援所	堀内 宏美	100	100	80
ぱそこんくらぶ レッツICT	村上 哲史	80	100	80
徳島ウイングス	西上 勝	80	150	80
小松島手をつなぐ親の会	長楽 千英子		200	100
休日レスパイト「はひふへほ」の会	長楽 千英子		170	80
車いすダンス研究会	森 厚子	0	50	50
(認定特非)スペシャルオリンピックス日本・徳島	田所 健作		200	150
ヒューマンケア徳島	天野 善仁	50	50	50
おひさん	江本 純造		183	100

◆内部障害者関係(2団体 100)

(申請は2団体 100)

徳島県内部障害者団体	奥村 忠男	50	50	50
(特非)徳島県腎臓病協議会	豊田 洋子	50	50	50

◆視聴覚障害者関係(12団体 790)

(申請は16団体 2,256)

阿南市視覚障害者連合会	土肥 康弘		70	70
点訳サークル「コスモス」	木村 勝子		150	50
徳島県音訳ボランティア友の会	岸 原子		100	50
手話サークル サイン	中木 里奈		116	70
(公財)徳島県視覚障害者連合会	久米 清美		200	100
徳島ロービジョンネットワーク	四宮 加容		100	70
徳島県中途失聴難聴者協会	遠藤 孝	50	80	50
徳島県筆記通訳者協会 徳島支部ペンライト	新井 和恵	0	200	50
徳島県筆記通訳者協会	林 明実	100	200	80
徳島盲ろう者友の会	角田 初江		200	100
徳島県手話通訳問題研究会	戎 協子		200	50
(特非)聴覚・ろう重複障害者生活支援センター	柴田 礼子		200	50

◆医療奉仕団体(9団体 720)

(申請は10団体 1,458)

徳島県脊柱靭帯骨化症友の会	近藤 力	70	200	70
---------------	------	----	-----	----

徳島県自閉症協会	堀内 宏美	0	200	50
徳島県ハンセン病支援協会	十川 勝幸	200	200	150
徳島多発性硬化症友の会	藤井 ミユキ	0	80	50
日本ALS協会 徳島県支部	長尾 義明	0	100	80
とくしま骨髄バンクを支援する会	池田 良一	50	50	50
アフリカ眼科医療を支援する会	内藤 毅	100	200	100
徳島県網膜色素変性症協会(JRPS徳島)	立田 弘	80	80	70
徳島県がん患者団体協議会	香留 美菜		200	100

◆地域社会福祉団体(28 団体 2,090)

(申請は 40 団体 5,485)

office ドーナツトーク 徳島事務所	田中 俊英		200	150
牟岐お接待の会	春木 澄子		50	50
徳島県交通遺児育成会	飯泉 嘉門	100	100	100
グランマ	稲井 美緒子	100	200	100
とくしま動物園ボランティアの会	山下 健一	50	50	50
認知症にならない名東カフェ	山下 善正		70	50
徳島防災ネットワーク	鎌田 啓三		180	150
(特非)月見ヶ丘海浜公園を育てる会	加賀見 孝志	50	100	50
よみきかせたい すだっちーずくらぶ	片山 みどり		100	50
徳島県ラージボール卓球委員会	山勢 和幸	100	200	80
徳島大学ドイツ兵俘虜研究会	井戸 慶治	150	150	100
いちごクラブ	山崎 美代子		100	50
地域支援ネット そよ風	八村 有希子	50	100	50
とくしま食育推進研究会	野間 智子	50	200	50
とくしまチャイルドライン	亀井 栄子	50	200	70
石井ボランティアあすなる会	笹田 典子	50	100	70
(特非)四季の会	坂東 範昭	80	200	50
CAP とくしま	日下 智賀子	50	200	50
女性への暴力根絶をめざす徳島ネットワーク	佐野 正代	50	195	50
徳島県聴覚障害者福祉協会	平 光江		100	100
KHJ 徳島県つばめの会	高橋 浩爾		140	70
阿波相撲史ワークス	笠原 二郎		200	100
おもちゃ病院 鴨島診療所	大西 春男		130	80
徳島県高等学校定時制通信制教育振興会	長尾 哲見	0	50	50
ストップ DV・サポートの会	湯浅 真由美	50	150	50
ぴーなっつ	田貝 妙子		200	100

NPO 法人 江川エコフレンド	瀬尾 規子	70	70
ジオジオおはなし広場	本淨 敏之	100	100

◆郷土芸能・文化関係(13 団体 1,760)	(申請は 14 団体 2,650)		
徳島県阿波踊り協会	林 俊明	200	200
八幡獅子太鼓保存会	杉本 孝司		50
徳島日本ポルトガル協会	桑原 信義		200
NPO法人 オペラ徳島	杉尾 登志光	100	80
小松島市阿波踊り振興会	安平 剛之	80	80
阿波の歴史を小説にする会	竹内 菊世	200	200
阿波おどり振興協会	朝日 榮作	100	100
NPO法人 写楽の会	川島 周	200	200
徳島佐苗会・青の会	杵屋 佐篠	150	150
蜂須賀まつり実行委員会	大西 智城	100	100
和太鼓 遊山	秋山 哲寛		100
徳島邦楽集団	英 崇夫		200
徳島少年少女合唱団	上田 収穂	100	100

[その他]寄託寄付金の受け入れ

2019年度は 19 件、4,181,895 円の寄託がありました(徳島新聞分 10,000,000 円除く)。前年度に比べ 4 件増、金額では 1,574,242 円増えました。

※ご寄付いただいた方は次の皆さん。(敬称略) (円)

(一社)関西広域中四国&モンゴル経済文化スポーツ 交流協会	500,000
徳島県手工芸家協会	100,000
徳島交響楽団	100,000
医療法人坂東ハートクリニック	1,000,000
茶道裏千家淡交会徳島支部	100,000
徳島県茶道協会	100,000
中田祐児	1,000,000
チャリティ阿波踊り in 小松島	20,000
徳島チャリティ	111,895
(公財)日本おもと協会徳島支部	5,000
尾上美千代(佐野比呂志ご遺族)	100,000
徳島中央自動車運転代行業管理協議会	50,000

徳島現代クラフト協会	30,000
徳島経済同友会	150,000
徳島通運(株)	200,000
広樹会	10,000
那賀川子育て家庭支援センター「おひさまひろば」	5,000
徳島トヨペット(株)	500,000
日本生命保険相互会社	100,000

内部統制システムの運用状況の概要

法令及び定款を順守し、業務の適正を確保するための体制の整備を引き続き進めました。また、「コンプライアンス規程」も策定しました。これら規定に基づき、監事は、業務の有効性・効率性及び財産管理の状況をチェックし、理事及び職員の職務の執行が、法令・定款に適合しているかどうかを調査・確認していきます。

事業報告附属明細書の不記載

2019 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2020 年 5 月 12 日

公益財団法人 徳島新聞社会文化事業団